

平成27年度 教育部  
組織目標達成度測定シート

今年度の目標設定				今年度の目標の達成度と今後の取り組み		
A 組織の方針(使命)	B 重点目標項目	C 設定理由・考え方	D 活動(手段)	E 目標の達成評価	F 目標の達成度	G 今後の取り組み
組織の基本方針又は使命	今年度取り組む事項	どのようなニーズに基づくのか どのような成果を目指すのか	重点目標項目を実現するため行う活動や手段	目標の達成状況や成果の評価(できるだけ定量的に記入)	※目標の達成度の区分(「B重点目標項目」単位での評価)	目標が未達成であれば、今後の具体的な取り組み
京田辺市の教育は、活力とうるおいのある未来をつくるため、確かな見通しを持って主体的に生き抜く、創造性あふれる心豊かな人間の形成を目指すものである。 そのため、学校教育、社会教育、社会体育の密接な連携を進め、子ども達の豊富な社会体験を通して人間形成に努めるとともに、市民の生涯にわたる学習活動を推進し、地域に即した教育活動の活性化のために一層の努力を図る。	1.教育、学術及び文化の振興に関する総合的な施策の大綱を定める	・平成27年4月に施行された教育委員会制度改革において、総合教育会議の設置と大綱の策定が義務付けられた。	・総合教育会議を市長部局とともに開催し、教育に関する「大綱」を策定する。	・総合教育会議を3回開催し、「大綱」を策定した。	A	
	2.職員の適性配置に向けた職員採用計画の策定及び採用	・財政の健全化と行政サービスとの均衡を保った適正な要員を確保することで、諸施策を継続的、着実に実行する。	・適正な職員配置を検討し、職員採用計画案を示し、市人事当局と協議・調整を図る。 ・専門的職種について、専門的知見を引き継ぎ、事業継続性を確保する。	・市人事当局と協議・調整を行い、必要な要員を確保した。 ・学芸員の資格を有する専門職員を採用した。	A	
	3.文化振興計画の策定	・文化振興の基本方針をソフト及びハードの両面から明らかにするとともに文化施策を総合的かつ計画的に推進するため、京田辺市文化振興計画を策定する。	・文化振興懇話会の開催 ・中間案に関するパブリックコメント等の実施 ・京田辺市文化振興計画の策定	・平成27年10月、パブリックコメントを実施した。(意見数94件) ・同年12月、京田辺市文化振興計画を策定した。 ・同計画概要版を関係者等に配布及び各施設に配架した。 また、市HP等で同計画の周知を図った。	A	
	4.歴史資料の調査・整理・公開	・将来的な市史編纂に向けて、市所蔵の歴史資料等の調査、整理を行うとともに、その成果を調査報告会等で市民に還元する。	・京都府立大学との共同調査の開催 ・歴史資料整理ボランティアの開催 ・昨年度調査分の調査報告会の開催	・京都府立大学との共同調査を11回開催した。 ・歴史資料ボランティアを3回開催した。 ・昨年度調査分の調査報告会を1回開催した。	A	

平成27年度 教育部  
組織目標達成度測定シート

今年度の目標設定				今年度の目標の達成度と今後の取り組み		
A 組織の方針(使命)	B 重点目標項目	C 設定理由・考え方	D 活動(手段)	E 目標の達成評価	F 目標の達成度	G 今後の取り組み
組織の基本方針又は使命	今年度取り組む事項	どのようなニーズに基づくのか どのような成果を目指すのか	重点目標項目を実現するため行う活動や手段	目標の達成状況や成果の評価(できるだけ定量的に記入)	※目標の達成度の区分(「B重点目標項目」単位での評価)	目標が未達成であれば、今後の具体的な取り組み
	5.不登校対策	・不登校児童生徒の解消に向け、ポットラックの充実などの対策を講じる。	・不登校対策プロジェクト調査／分析 協力校による取組 ・ポットラックの移転等、内容の見直しを行う。	・不登校児童生徒の詳細な把握を行った。(H27:104名) ・28年4月にポットラックを移転し、受け入れ体制など機能の充実を図った。	B	・引き続き、早期発見と早期対応による未然防止と、ポットラック等との連携による学校復帰を進めていく。
	6.モデル校事業の着実な推進	・子ども・学校応援プロジェクトの展開。	・研究授業の実施等、研究の推進、市内各校への公開 ・第2回モデル校実践交流会の実施(H28.1.27) ・担当指導主事による継続的な指導	・実践交流会を教職員249名(75%)の参加により行った。 ・各校の計画に基づき、研究を進めることができた。	B	3～4年の計画であるため、引き続き研究実践を進める。 28年度は、8校で研究発表会を予定している。
	7.学校、幼稚園施設の維持管理	・老朽化が進む学校施設の修繕などのメンテナンスを計画的に行う。  ・予算の平準化を促すため、対処療法型の修繕ではなく、予算保全型の修繕による維持管理への転換や施設更新を計画的に行う。	・公共施設等総合管理計画を踏まえた学校施設長寿命化計画策定について検討を進める。	・学校施設の修繕などを計画的に実施した。	B	・公共施設等総合管理計画を踏まえた学校施設長寿命化計画の策定に向けた取組を進める。

平成27年度 教育部  
組織目標達成度測定シート

今年度の目標設定				今年度の目標の達成度と今後の取り組み		
A 組織の方針(使命)	B 重点目標項目	C 設定理由・考え方	D 活動(手段)	E 目標の達成評価	F 目標の達成度	G 今後の取り組み
組織の基本方針又は使命	今年度取り組む事項	どのようなニーズに基づくのか どのような成果を目指すのか	重点目標項目を実現するため行う活動や手段	目標の達成状況や成果の評価(できるだけ定量的に記入)	※目標の達成度の区分(「B重点目標項目」単位での評価)	目標が未達成であれば、今後の具体的な取り組み
	8.中学校給食の検討	・デリバリー方式による注文弁当幹旋事業について、再評価に向けた取組を行うとともに、今後の中学校昼食のあり方についての研究を計画的に進める。	・さらなる検討に向け、そのスキームを作成するとともに、検討の基礎となる他市町村の状況や取り組みなど、検討課題の整理を行う。	・デリバリー方式による注文弁当幹旋事業の充実を図るとともに、検討委員会設置に向けた取組を進めた。	A	・検討委員会を設置するとともに中学校給食の検討に向けた取組を進める。
	9.通学路安全対策	・児童生徒が安心・安全に通学することができる環境整備を行う。	・市通学路安全推進会議において課題の共有化を図り、具体的な対策の検討及び実施に向けた取り組みを進める。	・通学路安全推進会議を開催し、課題の共有化を図るとともに対策箇所をホームページに公開した。	A	・学校、PTA及び区要望を元に通学路安全対策リストを作成し、情報の共有を図るとともに必要に応じて合同点検を行う。
	10.放課後子ども総合プランへの取組	・全ての就学児童が放課後等を安全・安心に過ごし、多様な体験・活動を行うことができる取組を進める。	・運営ボランティアや留守家庭児童会支援員から意見を聴取し、取組について検討を行う。	・留守家庭児童会の児童だけに限らず、全ての児童を対象に事業を実施した。(9小学校で63回、延べ4,045名参加)	B	・年度末に各校の運営委員から聴取した意見を反映する。
	11.生涯学習推進計画のまとめと今後に向けた取組	・平成18年に策定した生涯学習推進基本計画の計画目標年次が平成27年度となっている。	・計画の成果を取りまとめるとともに、今後の推進方策を検討する。	・事業実施状況調査票を作成した。	C	・各事業の実施状況等について集約を実施する。